

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第377回

梶山浩一

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和6年2月9日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

音楽への情熱だけを頼りに

作曲家としての道を進むことができた。

梶山浩一（すぎやま こういち）は、日本の作曲家・編曲家・指揮者。日本作編曲家協会常任理事、日本音楽著作権協会評議員、日本カジノ学会理事、日本バックギャモン協会名誉会長、喫煙文化研究会代表。位階は従四位。

Column

私自身もオーケストラのスケール感や、映画の感動シーンをさらに引き立てる挿入歌などに何度も感動させてもらっている一人ですが、みなさんの中にも音楽を聴いて感動したという経験がある人はかなり多いのではないのでしょうか。梶山氏は人気RPG『ドラゴンクエストシリーズ』の作曲家として知られる人物ですが、私が幼い頃にドラゴンクエストシリーズが誕生し、当初から“社会現象”と呼ばれるほどのブームとなり、あまりゲームをやっていなかった私でさえもメロディーだけは知っていました。きっと熱中していた人たちは、流れてくる曲によって『あのシーン！』と答えられるくらい強く印象に残っているはずです。私は過去にヒットした曲を改めて聴くと、その当時の思い出が蘇ったり、ベートーヴェンの交響曲第5番『運命』が流れるとショックを受けた気分になったりします。音楽は私たちの日常にある様々なシーンから受ける印象を鮮明にしてくれる効果があるように感じます。そういう意味では作曲家とは、不特定多数の人がその音楽に心を動かされるようなパワーを吹き込むことを必要とされます。ですから今回の言葉のように情熱“だけ”と言い切れる梶山氏がどれだけ強い情熱を持った人物なのかがよくわかります。

ここまで述べてきたことを覆すわけではありませんが、梶山氏が持っている情熱は最初から作曲家として成功するレベルのものだったかどうかは別だと私は思っています。作曲家としての“思い”が情熱を大きく育て、結果としてそのレベルにまで達したものだと思っています。そこには仲間の存在や目指すべき理想の作曲家の姿もあったかもしれません。私たちが数々の作曲家のみなさんが生み出した作品に感動し、パワーをもらうように梶山氏もパワーを蓄えながら成長してきたに違いありません。そして、現状に満足もしていなかったのだと思います。私は高校生のスポーツ競技の指導をしています。純粋な競技力としてはプロのレベルと比べれば当然見劣りします。その競技に興味がない人からすれば見る気にもならないかもしれません。しかし、彼らのパフォーマンスにはとても感動させられます。“思い（情熱）”を感じるからです。成功だけにとらわれることなく梶山氏の言うように『情熱を持って進むこと』が大切なのだと思います。